

第39回IBAFワールドカップ(2011/パナマ)

10月4日 日本0勝2敗

ロッド・カルー スタジアム(パナマシティ)-観衆1200名 試合時間3:24

	1	2	3	4	5	6	7	8	9				計
オランダ	0	0	0	4	0	0	0	0	1				5
日本	0	0	1	0	0	0	1	0	0				2

バッテリー) オランダ:○コルデマンス、マークウェル、ハーグマン-テ ヨング

日本:●濱野、小高、海田、十亀、三橋、宇田川、藤田-中野

本塁打)

三塁打) オランダ:エンゲルハルト

二塁打) オランダ:スチョップ、ダーンジ、スミス 日本:小手川、多幡、安達

	守備	打数	安打	打点
北道	LF)	2	0	0
川端	H-LF)	1	1	1
小手川	CF)	3	2	0
多幡	3B)	4	1	1
林	RF)	4	0	0
池邊	DH)	4	1	0
的場	1B)	3	1	0
小林	H)	1	0	0
川戸	SS)	3	0	0
中野	C)	4	1	0
坂上	2B)	2	0	0
安達	H-2B)	2	1	0
		33	8	2

一次予選突破のホーダーライン上にいると考えられるのがオランダと日本であり、この試合は非常に重要な意味を持つものであった。両チームともその重要性を理解し、オランダは予想していたベテランエースのコルデマンスが先発し、日本は濱野を先発に起用した。日本はコルデマンスの映像データ、球種等は全て把握し試合に臨み、3回裏小手川の二塁打と多幡の適時二塁打で1点を先制した。しかし、4回表1死後のスチョップの二塁打をきっかけに日本代表伝統の強力ディフェンスが崩れ、6番エンゲルハルトの内野安打とその打球処理をさせた失策で1点を与え同点。その後四球と野選で満塁になったところで2番手小高が9番ダーンジに走者一掃の左中間二塁打を浴び4対1となった。その後、オランダは必勝態勢に入り、なんと左エースのマークウェルを投入してきたが、こちらのデータも完璧に把握していた日本は、7回2死から9番に代打の安達が右中間二塁打、続く1番に代打の川端が中前に打球を運び2点目を加えることが出来た。オランダの両エースから2得点し、本来は最小失点で切り抜けなければならないところだが、この日は守備陣が3失策、投手陣も9四死球と全く日本代表らしさは見えず、結果的には自滅した形となった。